

「いしかわ『宇宙の学校』」事業

宇宙を素材にしたスクーリングや家庭学習に親子が一緒に参加することで家族・地域の絆を深める

「はやぶさ 遥かなる帰還」や「宇宙兄弟」といった映画やアニメのヒットで子どもたちの間にちょっとした宇宙ブームが起きているが、その宇宙や自然をテーマにした実験や工作を通して家族の絆を深めようと活動しているのが、「いしかわ宇宙の学校」である。AJOSCの助成により実現したという特別教室をたずねてみた。

「子ども・宇宙・未来の会」と連携してスクーリングや家庭学習を実施

「楽しい?」と聞いたら、「チョー楽シッ!」と声を弾ませて答える少年。彼が目をはかして取り組んでいるのは、傘入れ用のポリ袋と荷作りなどに使うポリテープを使った「静電気クラゲ」という科学実験遊びだが、うまくいけば細かく裂いたテープがクラゲのようにフワフワと空中を舞う。2013年3月9日、石川県羽咋市にあるコスモイル羽咋で開催された「いしかわ宇宙の学校」の特別教室。会場には、小学校低学年までの子どもが親子連れで約80組・180名集まった。

2010年にスタートした「いしかわ宇宙の学校」は、「NPO 法人子ども・宇宙・未来の会(KU-MA)」と連携し、自然や宇宙をテーマに親子や地域の人たちが共に学ぶことにより、家族の絆や地域の絆を深め、地域をあげて子どもを育成する土壌を形成することを目的とした団体である。金沢会場、かほく郡市会場の2カ所を拠点に、親子が共に協力しあいながら実験や工作に取り組むスクーリング(年3回)と特別スクーリング(年1回)、その間をつなぐ家庭学習で構成されている。2012年度はAJOSCの助成を受けたことで、それを活用して今回の特別教室を開催することができたという。

「アメリカや旧ソ連で宇宙探査に使われた実物の機材などが展示されている日本でも類を見ないこの博物館で、ぜひ特別教室ができないかと考えていましたが、おかげさまで今回、実現することができました」。

そう話すのは、「いしかわ宇宙の学校」を主催する「宇宙の学校いしかわ委員会」で校長を務めている金沢大学・人間社会学域・学校教育学類・附属教育実践支援センター・准教授の加藤隆弘さん。

科学教育が盛んな地域の伝統を背景に親子・地域の絆づくりの種まきを行う

「いしかわ宇宙の学校」は人気が高く、2012年度は各50組・100名の定員に、金沢で6倍、かほく郡市で2倍の応募者があった。石川県は日本宇宙少年団などの活動が活発で、熱心な指導者も多い。「特に金沢地域は伝統的に科学教育が盛んなところで、学校の先生方を中心に休日には科学教室なども開かれています。そうした背景もあり、宇宙の学校を始めました。幸いなことに教育委員会の協力も得られ、連携しながら運営しています」と、加藤さん。スクーリングでは小学校の先生が講師や進行役を務め、金沢大学の学生もボランティアとして参加してい



多数の児童と保護者が集まった「いしかわ宇宙の学校」



館内見学ツアーでは、宇宙探査に使われた実物の機材について説明を受ける

る。活動の様子は、地元の新聞社やケーブルテレビなどを通して一般に告知・報道されている。なお、家庭学習では、KU-MAが用意するテキストを活用し、実験やレポートに取り組んでもらう仕組みとなっている。

コスモイル羽咋で行われた今回の特別教室では、KU-MA会長の川泰宣さん(宇宙航空研究開発機構・名誉教授)と羽咋市役所で産業振興や町おこしに取り組む高野誠鮮さんによる「1%の可能性があれば実現できる!」と題した対談、科学実験、館内見学ツアーが行われたが、親子が一緒に見学したり、静電気クラゲや紙コプターを作って遊ぶ様子が印象的だった。

「理科好きや科学好きの子どもを育てることが目的ではありません。宇宙という魅力ある素材を通して、親子で一緒に楽しんでほしい、考えてほしい。そうして培った力を将来のために役立ててほしい。この学校は、そのための種まきをしています。親子で参加することで、親は普段とは違う子どもの姿を発見できるだろうし、親は頼もしい存在だということ子どもが気づききっかけにもなる。ま



子どもたちに大人気の科学実験遊び

担当者より



念願だったことを希望する会場で実現。

宇宙の学校いしかわ委員会
校長
加藤隆弘さん

みんなに見てほしいと思っていたコスモイル羽咋という博物館を会場に、興味深いことをしている方をお招きしてイベントを開催できたことを感謝しております。今後も、こうした助成活動を継続していただき、より多くの地域や人々にチャンスをご提供いただけるようお願いいたします。

た、他の親子の関わり方を目にする機会にもなる。やはり子どもや親が変わっていく姿を見ることが、社会教育の醍醐味のひとつです」

そう語る、加藤さん。今後は指導者育成にも力を入れ、こうした活動が石川県全域で自主的に立ち上がるようにしたいと抱負を話す。子どもの頃に親と一緒に夢中になんかを楽しんだという体験は、必ずや子どもたちの将来を支える糧になるに違いない。



参加者は宇宙や自然をテーマにした実験や工作を通して家族の絆を深めた



参加者を募集するチラシ